

# 3サンハイツせけんばな紙

第 8 号 令和4年7月1日

編集責任者  
田島康弘(3-101)  
作成責任者  
渡邊芳憲(9-503)  
編集委員  
小松清明(10-501)

ヒメジヨオン(姫女苑) 団地内の至る所、特に 13号棟と14号棟の間の通路付近に目立つて多く咲いていました。花の咲く時期は5~8月で、日本全国どこでも見られます。

これに似た野草でハルジオン(春紫苑)があります。花の咲く時期が3~6月で、鹿児島でも見ることができます。花の咲く時間が関東地方に多いことが知られています。

ヒメジヨオンとハルジオンの違いは、茎を切つてみると、わかります。ヒメジヨオンは中が詰まっていますがハルジオンは空洞になっています。また、茎への葉の付き方も、ハルジオンの葉は茎を巻くようについていますが、ヒメジヨオンの葉は茎を抱いていません。これでも区別できます。

今、団地内で見られるのは、すべてヒメジヨオンです。(写真は、行事予定欄に)

※ 団地内のヒメジヨオンは、6月下旬の草刈りで、すべてなくなってしまった。可憐な花が群生している様は、心が和んでいたのですが。

### 団地内の野草

## 7月行事予定

コロナの状況次第では中止もあります 事前に確認を

- 3日(日)・第3回カモスク講座、第2回ダレデエーモ・マナヴェール講座 合同講座 **※要事前申込み**  
テーマ:「錦江湾はどのようにしてできたのでしょうか」  
講 師:鹿児島大学元教授 大木公彦先生  
場 所:鴨池小学校体育館 時 間:10:00~11:30  
定 員:親子10組及び一般の方 総数50名 参加費:無料 



ヒメジヨオン

- 9日(土)・鴨池小学校  
鴨池中学校} 土曜授業  
・鴨池中学校 学年・学級PTA  
・火災予防運動の日(毎月9日)

- 14日(木)・第3回プティエコール **※要事前申込み**  
テーマ:「体幹トレーニング」  
場所:真砂福祉館 時間:10:00~12:00 参加費:無料  
定員:15名 持参品:水分補給用飲料、タオル、  
ヨガマット(バスタオル可)

- 15日（金）・合同リサイクル  
主 催：鴨池小学校、校区コミュニティ協議会  
場所時間：鴨池小学校正門・東門前 7:30～8:00  
収集対象：廃食用油、古本、制服、キッチン金属、ベルマーク、インクカートリッジ

- 16日（土）・鴨池小学校 友愛バザー

- 20日(水)・鳴池小学校  
鳴池中学校} 第1学期終業式

- 24日(日)・第4回カモスク講座、第3回ダレデューモ・マナヴェール講座 合同講座 **※要事前申込み**  
テーマ:「環境にやさしい子ども環境家計簿を親子で作ろう」  
場所:鴨池小学校体育館 時間:10:00~11:30 参加費:無料  
定員:親子10組及び一般の方 総数50名

- 31日（日）・第5回カモスク講座 **※要事前申込み**  
テーマ：「ペットボトルで空気砲を作って遊ぼう!!!」  
場所：鴨池小学校体育館 時間：10:00～11:30 参加費：無料  
定員：小学4年生～6年生の親子10組 持参品：500mlペットボトル(1家族1本)、  
はさみ、筆記具

※ お申込み・お問合わせ先

鴨池校区コミュニティ協議会事務局 ☎099-285-1522 (月・水・金 9:00~12:00, 祝日休み)

# 鴨池歴史散歩－海濱院編

渡邊芳憲（9·503）



今回は、真砂町にある「海濱院碑」について調べてみました。鹿児島市医師会病院と鹿児島県社会福祉センターの間の通りを県庁を背に西に進み水道局前交差点を過ぎて進むと真砂保育園があります。保育園の次の区画（真砂町26番）にこの碑があります。向かいには自民党鹿児島県支部連合会のビルがあります。この碑は3メートルを超える大きな一枚岩でできています。碑文は漢文調で、読もうとしたが、手に負えませんでした。

本題の海濱院についてですが、開業医中江佐八郎と中江から相談を受けた加藤好照（当時県立病院内科部長）は、オゾンを多く含んだ海岸地帯に共同で結核療養所（サントリウム）を造ることとして、当時白砂青松の浜辺であったこの場所を適地として、明治38年（西暦1905年）9月「境濱海濱院」を開設しました。（碑によると起工は明治36年）設立に当たっては、島津家や地元の実業家などが支援を行つたようです。島津家は、全国で蔓延しており、死亡率も高く、脚気と並んで国民病と恐れられた伝染病でした。この境濱海濱院は敷地1万2千坪（3万9千6百m<sup>2</sup>）

建坪6百20坪（約2千m<sup>2</sup>）の広さがあり、病床も65あり、西日本随一の近代的設備を誇る肺結核療養所と言っていたそうです。

いつのパリ万国博覧会（パリ万博）だつたかはわからませんが（パリでは複数回の万博が開催されています）、この病院のパノラマ模型が、特別賞をとつているとのことです。

大正12年（西暦1923年）12月30日、境濱海濱院は日赤鹿児島支部に買収・移譲され、名称も「海濱院」と変わりました。これを機に日赤は結核対策に力を入れることとし、結核患者の早期発見を図るために、高見馬場通りに、海濱院の出張所として一般内科の診療所を設置して、結核患者の救済に努めています。

大正12年買収を機に改称となつてますが、買収前の大正7年建立の碑の「海濱院」が解せません。

海濱院は、最初の2年ぐらいは、黒字を出していましたが、その後は収益の出ない苦しい経営状況だったようです。これは、患者の入院日数の減少が大きく影響しているようだとのことです。入院日数の減少の理由まではわかりません。

この状況を改善するために、日赤では、開設後33年経過し、老朽化した建物の改築をしようとしていました。昭和13年（西暦1938年）のことです。一方海濱院周辺の住民からは強い移転要望が出されていたようです。

他方、鹿児島市では空港建設の計画がありました。昭和8年の時点での空港建設候補地として、谷山小松原、新川尻、鴨池、吉野、紫原の名前が挙がっていました。昭和13年（西暦1938年）のことです。（ここでも、新川尻と鴨池の違いがわかりません）。なお、飛行場面積も、当初13万坪の予定が、国の命により経費国持ちの25万坪に拡張されました。そして、昭和13年3月新川尻埋め立て工事が始まり、昭和15年（西暦1940年）長さ1500m幅650mの飛行場が完成しました。そして、翌昭和16年1月海軍の飛行基地として国に徵用されました。

これを受けて、海濱院の場所も国に接収されることになり、日赤の結核療養所は、昭和14年5月22日谷山町平川（当時）に新築移転し、名称も錦江療院と改められました。

海濱院の場所ですが、イオン鹿児島鴨池店内に暗渠となつていた鴨池川が国道225線をまたいで顔を出す所（ここには橋（かもいりません）が掛かっていますが、一見しても橋とはわかりにくくなっています。海側に欄干があるのを辛うじて橋だとわかります。）を起点に碑の在るあたりまで西に膨らむ緩いカーブを描いて進み、そのまま東に向かい、水道局前信号の一つ手前の筋を左に曲がつて鴨池川にぶつかるまでの範囲だと思われます。昭和14年に鹿児島市は日赤から海濱院の跡地の払下げを受けています。この時の面積は3万7千5百m<sup>2</sup>となっています。この面積は先に挙げた3万9千6百m<sup>2</sup>との間に開きがありますが、その理由は分かりません。鹿児島市は、ここに児童公園を構想していましたが、空港用地として国に接収されてしまつたということになります。

戦後、この場所は、鹿児島市へ移管されました。鹿児島市は、ここに児童公園ではなく、住宅難を解消するため住宅地に転用され、住宅や真砂保育園となりました。

冒頭、青松白砂の浜辺と書きましたが、真砂保育園内にある松の木に往時の面影が残つてているように思います。

所で、海濱院を調べている途中で「海濱院停留所」という言葉にぶつかりました。「海濱院停留所」という絵葉書があるのですが、住宅に入れたたら、紹介したいと思います。

【後記】

今回の記事を書くに当たつては、「鹿児島市医報」「ゆめみなど鹿児島」「日本赤十字社鹿児島県支部HP」を参考させていただきました。感謝します。